

会長 阿部信一  
TEL 025-273-1572

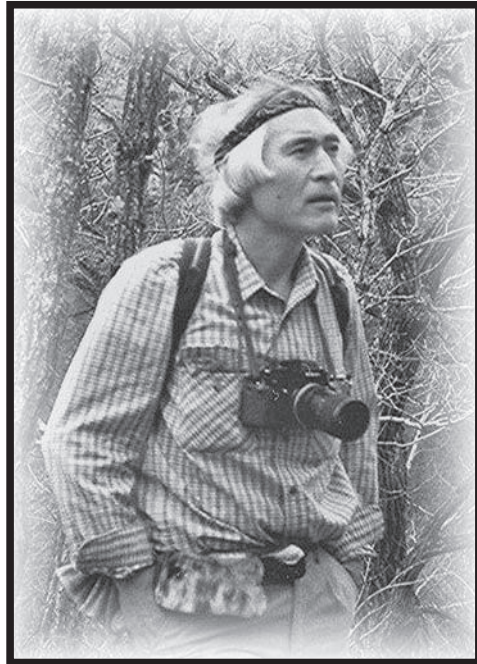
事務局 井村健一  
新潟市北区すみれ野2-10-12  
TEL 025-259-7152

会報・編集委員会代表  
浅野巨寛  
長岡市金町2-2-17  
TEL 0258-52-3998

# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

## 小野 健氏逝く



### 小野 健さんを偲んで

新潟県山岳協会会長 阿部 信一（新潟山岳協会会長）

平成26年春。

3月17日朝、一番聞きたくない連絡が携帯に入った。聞きたくないというより一番畏れていた連絡かも知れない。

それも2月9日新潟山岳会50周年の記念講演に無理を押してがんばっていたいただいた負

い目かも知れない。健さんの最後の講演はいつにもまして

緊迫感があった。自身最後の講演と自覚していたのかも知れない。入院中の病院から了解を得て来ていただきました

た。体調は前日昼に新潟に着いたときからもすぐれない状態だった。両足のむくみもひ

どく、ちゃんと歩けない状態でした。ベッドで横になり、同行いただいた斎藤八郎さん、長野ひとみさん、2人がかりでマッサージをしたら、だいぶむくみも引いた。夜中も咳き込みがひどく朝にはとても1時間以上講演をできるとは思えなかった。しかし、何事もなかったように講演をやりきってしまった。ただただ頭のさがる思いでいっぱいでした。

野武士のような屈強な体からかもし出すオーラはいつも新鮮で情熱的だ。その反面じつにナイーブでこまやかな面も沢山みせて頂いた。あの写真からにじみでるやさしい自然の豊かさとも限りなく厳かなきびしさ。こんなにも多岐にわたり、すぐれた能力をだせる人はほかに見たことはありません。1961年（昭和36年）より10年かけてつくった梅海新道はその後もやぶ刈りの整備もされることなく継続され大勢の人の楽しみに、安全に、おおきく貢献された。

その後ろ姿をみていた人が沢山いることに大きな喜びを感じています。健さんはいつも言っていました。「俺の人生は藪刈り人生だ」と、。山岳会などの枠を超えた日本アルプスの最後の開拓者であり、又将来にわたりその景観の保持、自然保護、と登山者の安全をいつも念頭に行動されていきました。又別の意味ですごいのは誕生日登山とはいいながら、正月単独登山の剣岳や槍ヶ岳までをやりつづける、そのストイックさではないかと常々思っていました。それも先回の正月山行、白鳥山での村山さんの凍死は健さんにどれだけの打撃であったか計り知れません。藪刈りの右腕であった村山さんは健さんの心の右腕でもあったのだと私は感じていました。心のなかのおおきなおおきな空白は葬儀での痛々しいまでの健さんの表情と面持ちでわかりました。その顔と表情は今も臉からはなれません。そのときの健さんも体調はベス

トではなかったような気がしました。

このことが健さんの元気に影響しなければいいなどそのとき感じていました。その後毎年何回もかよっていた梅海新道もいく回数が減ってきました。体調もすぐれず闘病に専念されていたと思います。本人が一番さみしかったのではなかったかと感じていました。たまたま長野ひとみさんと健さんと山姥道を下山していたときのことでした。滝上の一番急傾斜のトラバース道で、背の高い健さんが横に出ていた木で思い切り頭をぶつけ右の崖に落ち始めた瞬間に私がかみかろうじて滑落を免れました。軽い脳震盪をおこしたみたいでした。なんでこんな誰にも話したことのないことをもちだしたという

と、健さんに世話になりっぱなしでなにもお返しができなくてない自分がとても寂しいのです。

を阿部さんお願いしますと小屋主の清水ゆかりさんから言われました。小野さんが泊る人の部屋割りとそのことのアックスを入れてくれていま

した。いま思うと本当に最後の手伝いとなりました。坂田峠にビールの差し入れを持って迎えに来ていただきまして。その時頂いた2億年前の化石が眼の前にあります。それを見ながら、触りながら、やっとこの文を書いていきます。本当にお世話になりました。そして有難うございました。

黒岩平のお花畑で、愛用の一眼レフのシャッターを押している健さんの姿が瞭から消えません。その周辺の藪から登山者の安全をずっと見守っておられると信じています。

そして永遠に梅海新道のあるかぎり、健さんは登山者の心の中に生きつづけます。

合掌

谷社」、「東京新聞岳人編集

## 生涯・梅海新道を愛した 小野 健さんを悼む

糸魚川山岳会々員 藤巻 道夫

小野 健さんの計報第一報が所属山岳会、本間政一会長からは「いつ」かといいかえしたら「今朝だ」ということだった。ただちに信じられなかったが「遂に」と絶句した。

3月19日午後6時30分から通夜式、翌20日午前10時30分からお別れ会が無宗教で行われた。両日とも黙祷、弔辞、白いカーネーションの献花だった。出棺に先だち近親者のみが棺に花を入れ最後のお別れになった。

部」などがあつた。学際的な健さんの顔である。会葬者の一部がホールからロビーにでたが花がいれられる頃から「いつかある日」(原詩口ジェ・デュプロ、歌詞深田久弥)の合唱が、だんだん大きなうねりになりホール内外に響きわたった。

手術後の山行とかお書きになった本を読むと、きっと元気になられると信じて拝読していた。

小野 健さんを時に先生と呼んだりした。所属山岳会やお住まいが隣町だったこともあり梅海新道の山行なども一緒にできず、出版物を通じて声をかけさせていただいた。最初は、71年に山溪新書11で出版された「山族野郎の青春―北アルプスに道を拓く」をどうしても手元におきたくて電話をした。絶版で手元にも一冊もないということだった。是非「復刻版」がほしいものでしょうか、と申し上げたら、私如きものの本が復刻なんかできないと謙遜されていた。

会場は大きなホールだが山岳関係者はもちろん各界各層から贈られた生花に囲まれ、中央祭壇の生花のなかに健さん愛用の登山靴・カメラ・ピッケルが安置されていた。ます・メディアから「山と溪谷社」、「東京新聞岳人編集

川局の消印が1月11日のものが配達された。いつもながら梅海新道を中心に手書きの賀状で、必ずコメントがあつた。ことしも「病床にあつた山が遠去っていくのが如何にも残念です」とあつたが、大底本になった前記「山族野郎の青春…」が大幅な加筆訂正

され、再構成されたのだから、(こんな欣喜なこと)はない。(注) (第一部 山族野郎の青春として集録)。出版の年が明けた2011・1・5ちょうど出版から1ヶ月になる。しかも健さん最大語録「継続は成果なり」小野 健、著名落款(押印)一冊を拝受した。出版社の新书はともかく「叢書」となると出版社・編集者・著者の信頼関係に基づく良書であり、自他ともに認める自信作でなければならぬ。山の本の出版を主とする山と溪谷社の叢書5になったことを明記しておきたい。そして永久に私の稀本として書架におきたい一冊になった。

紙数がないが02・6・9快晴、長野県小谷村湯峠から大渚山(1566, 3m)に家内をつれて登った。山頂の展望台下から「山頂で会いましょう」と声をかけて健さんがのぼってこられた。この山頂でお会いするとは。「雨飾をバックに一枚撮りましょう」といわれた。いつも糸魚川から遠望する双耳峰の山容豊かな雨飾だが、小谷側からは急峻懸崖の山である。残雪の山肌を背景に、健さん愛用のカメラのシャッターの快音を確認した。後日いただいた一枚は、深田久弥をして雨飾山のウラといわれた方向からのもの、私どもにとつて掛け替えのないスナップになったのはいうまでもない。

「新潟100名山」の執筆のことや、FOSSA M A G N Aの自然カレンダーのことはどうしても書き残したいが割愛する。お許し下さい。この稿を書くに当たり、小野先生が生涯をかけた梅海新道の親不知登山口、そして吹上のコルから日本海をめざす岳人たちの終点になる日本海(国道8号から0をめざす海岸)の周辺を一カ月にわたつて歩いた。

ご一緒に山行できなかつたことと、健さんの汗の結晶コースを偲びながら、せめて最終コースの林道橋立上路線によって分断された分岐点から日本海まで歩こうと思つた。ところがこの林道の東と西に土砂崩壊があり通行止めで行くクロスの分岐点までは徒歩でも不可能であった。ようやく5月下旬の晴天の続いた日に、本間政一会長と上沢敏彦会員の二人の猛者からサポートしてもらい、林道とのクロスから二本松峠↓入道山(448m)經由↓国道8号登山口まで3人で完歩した。二本松峠までの杉林の林床に群生するチゴユリの白い花を見ながら、在りし日の小野 健さんと「さわがに山岳会」の足跡に、ただただ感謝の意を表したい。

晩年、平成の合併により能生・青海両町を含む新糸魚川市の初代市文化協会会長に就任された。その間の表彰・顕彰は数えきれないが、なかでも藍綬褒章の受章は自他ともに喜びにたえないものであった。

生涯、梅海新道を愛し、自然保護に対する慧眼と文化に対する眼力のバランスが多く

の人たちをひきつけた人間小野 健さんのバックボーンもそこにあつたと思う。

最後になりましたが公私にわたる謙虚なご教示に対し、心からお礼申しあげたい。本当にありがとうございます。どうか、やすらかに眠りください。

合掌。





**魚沼の里**  
www.uonuma-no-sato.co.jp



魚沼の酒  
**八海山**  
www.hakkaisan.co.jp

ALways Security OK



**新潟総合警備保障(株)**  
〒950-8633 新潟市東区小金町1-17-20  
TEL 025-274-1965 FAX 025-271-3445

小野さんの思い出



2009年2月橋本正巳氏藍綬褒章授賞祝賀会にて



1988年5月29日第1回白鳥山 婦人委員会親睦登山



2010年出版パーティーにて



2006年5月28日白鳥山山開きツアーを組んで参加



2010年12月11日JAC晩餐会にて



2010年11月6日梅海新道ものがたりその自然と人々出版記念パーティー



2011年6月4日  
「いつかある日」を歌う  
開通40周年パーティー



2010年1月23日県山協新年度にて



第25回海のウエストン祭 (2010年5月23日)



2013年7月19日海のウエストン祭25周年記念



小野さん最後の白鳥山山開き



26年新潟山岳会50周年にて講演の小野さん

# 小野 健さんを悼む

新潟県山岳協会参与 山田 智子(越後山岳会)

さわがに山岳会会長の小野健さんがなくなつた。小野さんといえば「さわがに山岳会」「梅海新道」が代名詞のごとく有名である。常に目標を持っていて、多岐多才に実力を発揮しリーダーであった小野さん。もつと生きて山を楽しんでもらいたかつた。

現在の「知る人ぞ知る」であるが、1961年に職場の仲間七人で「さわがに山岳会」を結成。10年かけて全長

27キロにおよぶ登山道を築いた苦楽が、生き生きと綴られており、一気に読んだことや、奥様の内助の功に感嘆したことが思い出される。その後、県山協の行事でお会いし、一緒に山にも登るようになって、小野ご夫妻には公私にわたり大変お世話になりました。

つい先日「宇宙ササユリの開花」のニュースには、二月に福島訛りのある口調で「楽しみにしているんだよね」と話されていた小野さんが偲ば

れて、目頭を熱くした。力が残っていれば、まだやりたいことがある。と言っておられたが、ササユリの開花もどんなに心待ちにしておられたことだったか。小野さんは福島県いわき市の出身。就職で合併前の青海町の工場へ配属になった。そして初めて登った黒姫山からの眺望に、梅海新道への開拓をかりたてられて、北アルプスと日本海をつなぐまさに夢の縦走路を開通させたのである。

0mから三千m級の高低差、貴重な動植物の数々、小野さんが仲間と共に半世紀以上、ヤブ刈を続けてきた梅海新道は、数年前によくやく全ルートが登山地図にも表示され、岳人憧れの屈指の縦走路となり、その魅力を全国に発信し続けた小野さん本人も全国の登山家であった。小野さんは希有な登山家であつた。工場勤務のかたわらか、ヤブ刈のかたわらか、多数の著書や写真集の出版。地元博物館の岩石展示のアドバイザー

ザーを務めるほど、鉱物、地層、植生に造詣が深く、新潟日報紙上をはじめ山岳雑誌にも寄稿して、登山道沿線の自然の豊かさを紹介しておられた。その結果、新潟日報文化賞や山と溪谷社の山岳賞、NHKの放送文化賞などを受賞。スポーツ、レジャーとしての山登りだけでなく、地域の生涯学習や文化振興を担う登山家にこだわり、尽力した文化人でもあつた。今更書き記すまでもなく、小野さんは「継続は力なり」ではなく「継続は成果なり」が信条の人であつた。1962年より元旦登山を続けていて、誕生日が12月31日だったこともあり、地元の方であつたり燕岳や槍ヶ岳など、同行者がいなければ単独で出かけ、49年間も年始年末を山で過ごされていたという。

今年26回目となつた「海のウエストン祭」は、北陸自動車道開通に合わせて、日本アルプスの日本海側の起点となる親不知に誕生した記念の広場に、小野さんが行政に働きかけて、1988年にウエストンの全身像が建立され、その前で毎年行われている。上高地が山のウエストン祭なら、親不知は海のウエストン祭だと自負されていた。海のウエストン祭のセレモニーが終わると、坂田峠登山口へ移動して北アルプス最北の一千m峰である白鳥山へ登るが、白鳥山の山開きは海のウエストン祭の前年が第一回目の山開きである。この年、小野さんと地元の皆様のご協力を得て県山協婦人委員会の親睦登山を白鳥山で実施したが、記念写真を撮り終えた後に「今日、白鳥山の第一回目の山開きにしましょう」と小野さんが言われて、今年は27回目に至つた。梅海新道の山なみや、犬ヶ岳の肩に梅海山荘が望まれる頂きで行われる小野さんのミニ講演会が、汗して登つたあとの楽しみになつていった。婦人委員会の親睦登山で、「第一回目」のご縁をいただいた時に山に登っていただける



1986年1月26日県山協新年会 日報文化賞祝

間は毎年参加しようと思つた。2008年、第20回の海のウエスタン祭で、1回目より連続参加は私だけだったというこで（参加者名簿により）、小野さん直筆の感謝状と群体珊瑚の化石を記念に贈られたが、世界で一枚の感謝状とその時の感激は忘れることのできない思い出である。小野さんの継続を代表するものの一つに、大勢のファンが毎年楽しみに待っていたふるさとカレンダーがある。「フォッサマグナの山と石と植物」と称して、四季折々に撮りためた中から校正発行。27年分が手元にあるが素晴ら

しい写真集である。2009年に糸魚川市が世界ジオパークに認定されたが、このカレンダーを飾るふるさとの写真が大半入っていて、梅海新道は世界ジオパークなんだよ、と嬉しそうに言っていた小野さんの笑顔が浮かぶ。梅海新道は、山歩きを楽しむ人、草刈など維持管理に汗を流す人、写真を撮る人等々、さまざまな方々が小野さんを慕って集う。

雲上の縦走路で生まれた縁に、どれほど多くの方々が感謝していることか計り知れない。「継続は成果なり」を信条に、自然を愛し、人々を大切にしているヤブ刈人生を全うした小野さん。お好きだった「いつかある日」を唄う山仲間に送られて旅立たれたが、バンドナのハチマキに自作の木の杖を突き、胸に愛用のカメラ、腰に鉈を携行の独特のスタイルで、まさに千の風となつて梅海新道を見守っていて下ると思う。

小野さんとの出会いがもたらしてくれた奥様や地元の方々をはじめ、多方面の方々と、これからも縁を継いでゆくことができたらと願っている。あまりにも沢山の思い出が残っていて、書き足りないことがいっぱいであるが、感謝の気持ちはそれ以上にいっぱいである。

合掌



### 登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス



新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134(中)  
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

### 登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



### パーマーク

長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)  
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

# 新年度のスタートにあたって

理事長 遠藤 俊一

平成二六年四月一九日に平成二六年度評議員会が開催され、二六年度事業計画と予算が決定した。また、協会規約の改正も行われた。役員一同、新たな気持ちで事業執行に取り組んでまいりたいと決意を新たにしているところである。

この度の規約の改正では、個人会員制度を導入することとした。近年、登山事故や遭難救助が増加しているが、登山団体に加入していない未組織登山者の増加が一因ではないかとも言われている。こうした状況に対応しようと近年、個人会員制度を制定している各県山岳協会（連盟）も多い。当協会でも協会主催行事や日山協主催行事への参加を通じ、また、協会加盟団体会員との交流を通じ、より安全な登山が行われるようにとの

趣旨から、個人会員制度を今年度から実施することとしたものである。未組織登山者の多くの方々から加入いただき、より安全な登山を目指していただければと思つていて、折しも、四月二五日は、八月一日を「山の日」と定める祝日法改正案が衆議院で可決され、平成二八年度から施行される見通しとなった。今後「山の日」に因んだ行事も種々実施されることとなり、山に親しむ人たちの増加が予想される。また近年、若人の登山愛好者が増加しているのも事実であり、この機会をとらえて、当協会加盟団体の多くが抱える会員の高齢化にも歯止めがかけられるようお願いしている。

さて、昨年度を振り返れば、当協会に多大な功績を残された方々が相次いで御逝去され、残念な一年であった。改めて、御冥福をお祈りしたい。この偉大な先人が築いてこられた本協会を更に発展させて行くことは、我々の重大な責務であると考えている。承認された本年度行事は例年と変わりないが、各委員会でより良い企画をと知恵を絞って実施している事業であり、多くの加盟団体から参加願えば幸いである。

長らく改変されていなかった当協会のホームページを更新し、協会行事の発信や登山道情報等をタイムリーに掲載して行くこととし、東海林康博氏（新潟山岳会）に担当してもらおう。多くの加盟団体からも山に関する情報を提供していただければと思つている。加盟団体やその会員のみなならず、広く一般の山岳愛好者の方々からも見ていただける、また見るに値するホームページを実現したい。

今年度は個人会員制度の制定やホームページの更新を軸

に、承認された各委員会事業を着実に実施し、加盟団体の付託に沿えるよう運営に当たって行きたいと考えており

ますので、加盟団体の皆様にはご支援ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

## 平成26年度評議員会議事概要

日時：平成26年4月19日（土）12時30分～14時30分

場所：ホテルニューオータニ長岡

### 1. 開会会長挨拶

阿部信一会長

### 2. 議長選出

執行部は選出を一任され、日本山岳会越後支部桐生恒治氏を議長に選出した。

### 3. 議案審議

第1号議案 平成25年度事業報告及び決算報告について

井村事務局長が配付資料により説明。七澤監事より収入・支出とも適正かつ妥当に処理されていると監査報告があった。

資料の第1号議案（その2）平成25年度収支決算書の支出の部「印刷費」前年決算額と当期収支差額にプリント

ミスの指摘があり、「印刷費」前年決算額は394、6

45円に、当期収支差額は105、954円に修正し、承認された。

第2号議案 平成26年度事業計画及び収支予算について

井村事務局長が配付資料により説明。資料の第2号議案（その2）平成26年度収支予算書の支出の部「負担金」備考の日山協470、000円を日山協484、000円に修正し、承認された。

第3号議案 新潟県山岳協会規約の改正について

遠藤理事長が配付資料の新旧対照表により、改正案を説明。審議の結果、

第5条（4）「山岳スポーツ施設の設置」を「登山及び山岳スポーツ施設の設置」



に、  
第17条2項の「理事の半数以上」を「理事の1〜3以上」に、

第29条2項の「年度開始前」に「年度開始後」に、  
第30条の「事業計画及び予算」を「事業報告及び決算」に修正し、承認された。

4. 議事終了により議長解職  
5. 報告事項

井村事務局長より、遭難対策委員会委員、本田敏夫氏から島伸一氏に、自然保護委員会、小林重弘氏から井口光利氏にそれぞれ交代すること、及び25年度北信越国体の会計報告があった。

阿部会長から、先回の理事会で条件付き加盟承認とされた新潟クライマーズクラブは、名称を「新潟クライマーズソサイアティ」とし会長は藤田裕子氏、会員20名で発足したので、加盟させた。また、さわがに山岳会は今年度は存続するが、来年度以降は未定との報告あり。

理事長から、毎年7月

25日に開催の「弥彦山たいまつ登山祭」は当協会の伝統ある行事であり、加盟団体の積極的な参加の要請あり。

6. その他

下越山岳会佐久間雅義氏から、「トレイルラン」について当協会としての姿勢を広く議論すべきではないかとの提案があり、時期を見て、会議を開催することとした。

7. 閉会

以上



平成26年度評議員会にて

第15回 KAZOKUクライミングカップ2014に参加して

小杉 麗子 (稜友会)

5月25日に行われた、埼玉県大会に新潟県から、4人の子ども達が出場した。

我が息子もクライミングを始めてまだ、1年5ヶ月だが、この1年で県内外の大会にできるだけ参加するようにしてきた。

しかし、大会やコンペに参加する、ということとは、たくさん犠牲を伴うということに、すぐに気づかされた。県内ならまだしも、県外に行くには交通費から始まり、金銭的にも、又、夫婦共に仕事で忙しい私達にとっては時間的にも、肉体的にもきつかった。

それでも、大会に参加することを続けたのには、大きな収穫があるからだ。大会にでるといことは、上位になりたいからじゃなく、自分の力を確認し、それをバネに強くなっていくためだ。登った事のない課題に挑戦する楽し

さ、そして、ここぞという時に自分の力を出し切る強さ、それを得るために参加している。

この春、中学に進学し、部活に入らずひたすらクライミングに向き合っている、息子。気づけば、この埼玉県大会で、たくさん仲間ができて

いることに驚いた。大会やコンペでは、お互いにライバルでありながら、相手を応援しあう子ども達。相手の登りをみながら、良い刺激を受けていく。子どもながらに、立派なスポーツマン精神が培われているんだなあ、としみじみ思う。

さて、埼玉県大会に参加した、新潟県の子も達の結果はというと、残念な結果になってしまった。我が息子については、初の決勝進出だったが、まだまだ、力の差を感じた。しかし、そんな事に向けている暇もなく、この1年

で精神的にも強くなり、自分でこの結果を消化しようとしていた姿がみられ、頼もしく感じた。もっと、もっと、新潟県の子も達にクライミングが広まり、たくさん仲間登れる日が来るといいなあ、と感じた。

クライミングのように、大人も子どもも共にライバルになり、打ち込めるスポーツは、そうそうないと思う。そして、クライミングを通して、みんなが垣根を取り払い、一緒に盛り上げていけたら、と願うのはどの親にも共通した願いだと思ふ。



# 第六一回弥彦山たいまつ登山祭

遠藤 俊一（一峰会）

例年七月二五日に開催される「弥彦山たいまつ登山祭」は、梅雨明け前後の微妙な時期で天候が毎年心配されるが、今年は昨年とは違って変わって、朝から夏到来を思わせる快晴となった。

絶好の空模様の中で、「第六一回弥彦山たいまつ登山祭」は午後五時から、弥彦山頂、御神廟前で開催された。中央から日本山岳協会、崎会長や日本山岳協会、高原常務にお越しいただいた。弥彦山岳会、新潟山岳会、峡彩山岳会、越後吉田山岳会、長岡ハイキングクラブ、高田ハイキングクラブ、



日本山岳会越後支部等の県山協加盟団体の会員始め、三条おいらく山岳会や東京から神崎会長引率の軽登山靴倶楽部の方々の参加もあり、総勢百人を超えるにぎやかな登山祭となった。

弥彦神社神官による祝詞奏上、そして玉串奉奠のあとは、御神廟裏手の木陰となつてい



る広場で、日山協  
神崎会長から、「地球の三極（北極、南極、最高峰エベレスト）」と題して講演をいただいた。まず、チャレンジとは挑戦というより意欲である」とされ、世界の三極を巡り、初到達を目指して繰り返し広げられた様々なドラマに触れられながら、日本の北極点到達は日大隊が植村直巳氏より一日早かったことなどを語られた。また、文部科学省によれば、日本には八百万とも一千万と

もいわれる登山愛好者がいるとされているが、その大多数が未組織登山者である。多くの未組織登山者も含めた安全登山推進や遭難事故の減少の課題にも取り組んでいきたいと結ばれた。

日本海に夕日が落ち始める午後六時二〇分、弥彦山岳会から用意していただいたたいまつを手にとり下山が開始された。夜のとばりがおり始めた六合目付近でたいまつに点燈して下る。長く続いたたいまつが、幽玄の世界を感じながら弥彦神社を目指した。途中の茶店でたいまつを交換し、弥彦ボーイスカウト鼓笛隊に先導されて弥彦神社拜殿前に到着。弥彦神社宮司から御祓いを受けた後、さらに灯笼祭りで賑わう沿道を、拍手に迎えられるながら、鼓笛隊を先頭に弥彦駅前まで行進

し解散となった。近年都会では味わえなくなった心の触れ合いを感じる楽しい登山祭であった。

結びに、この行事に毎年ご尽力いただいている弥彦山岳会の皆様から感謝申し上げます。また、ご参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

この素晴らしい行事に、来年にはもっとより多くの方々が参加いただければと念願しております。



# 第69回北信越国体報告

新潟県山岳協会副会長 稲田 春男

長崎国体ブロック予選が7月26、27日に石川県金沢市の医王山スポーツセンターで行われた。大会日程は1日目がボルダ、2日目がリード。2日目は朝から雨の降る確率が70パーセントと高く、リード競技の中止もあるとの発表があり心配されたが、開始時間を1時間遅らせ無事リード競技を終了することが出来た。

今年で4年連続4種別国体出場が決まりました。選手の皆さんはじめ、指導者関係者の皆様に感謝申し上げます。

## 選手コメント

### 片桐麻由子選手（成女）

ボルダ、リード共に1位通過できて良かったです。全国のレベルにはまだまだなので残りの時間しっかりトレーニングしていきたいと思います

### 滝澤愉未選手（成女）

国体出場が決まり良かったです。10月までしっかりトレーニングして今年も決勝に行けるよう頑張ります。

### 猪股義太郎選手（少男）

初日のボルダで思うような登りができませんでしたが2日目で挽回できたのでとてもうれしいです。

### 三宅誠悟選手（少男）

確実に登れると思っていたルートで緊張してしまい、落ちてしまったのが悔しいです。

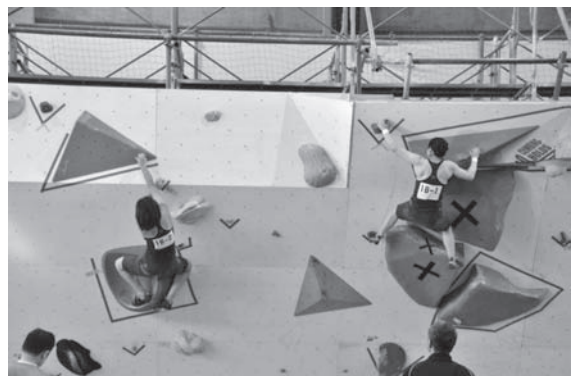
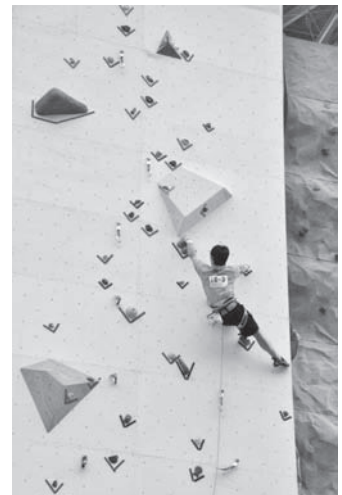
### 田中千華選手（少女）

緊張して全然登れなかったので国体では頑張ります。

### 田鹿菜央子選手（少女）

あまり登ることが出来なかったのでこれからの練習を頑張りたいです。

種別		ボルダ	リード	総合順位	国体出場権
成年女子	新潟	1	1	1	○
	長野	3	3	3	
	富山	4	4	4	
	石川	2	2	2	○
少年男子	新潟	1	2	1	○
	長野	2	1	1	○
	富山	5	5	5	
	石川	3	3	3	
少年女子	福井	4	4	4	
	新潟	2	1	1	○
	富山	1	1	2	○



素晴らしい活躍をした選手たち

第69回長崎国体 長崎県大村市  
 期間 10月17日～19日  
 リード 県立大村高等学校  
 ボルダ 大村公園特設会場

## 賛助会員入会 ご入金のお礼

次の皆様から、ご入会、ご入金を頂きましたので、ご報告させていただきます。

\* 4月1日～8月30日現在のご入会、ご入金状況です。

宮崎幸司（長岡ハイキングクラブ） 遠藤家之進正和（むささび会）

遠藤俊一（一峰会） 森 庄一（長岡ハイキングクラブ）

七沢恭四郎（高田ハイキングクラブ） 山田智子（越稜山岳会）

片桐一夫（長岡ハイキングクラブ） 橋本正巳（高田ハイキングクラブ）

土田幸雄（長岡ハイキングクラブ） 佐久間雅義（下越山岳会）

平田大六（関川山の会）

（敬称略、順不同）

新潟県山岳協会 会長 阿部信一 ・理事長 遠藤俊一 ・総務委員長 宮崎幸司

新潟県山岳協会加盟山岳団体・賛助会員 各位

新潟県山岳協会 会長 阿部 信一・理事長 遠藤 俊一・総務委員長 宮崎 幸司

## 平成26年度賛助会員継続および募集のお願い

謹啓、春暖の候皆さまにおかれては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素から本会の事業運営に格別なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて本会におきましては、加盟団体からの分担金で、下記の各種事業を実施しております。しかしながら、その実施にあたっては、十分な財源が確保されている状況ではございません。そのため場合によっては、担当各位のボランティアに依存しているのが実情です。つきましては、今年度も本会の目的や事業に賛同いただける方々を、個人・団体を問わず、賛助会員として募集いたします。何卒この趣旨にご賛同の上、「ご継続」及び「ご入会」いただきたくお願い申し上げます。例年多くの個人の方々から、ご賛同いただいておりますが、加盟山岳団体様からのご賛同についても、ご高配のほどお願い申し上げます。なお、ご賛同、ご入会いただける場合は、加盟団体、賛助会員へ送付いたします「払込取扱票」にて下記の賛助会費をご納入いただきますようお願い申し上げます。

### 1 新潟県山岳協会事業

- (1) 国民体育大会山岳部門に関する事項。
- (2) 新潟県体育協会登山部門に関する事項。
- (3) 日本山岳協会に関する事項。
- (4) 登山施設の改善促進及び技術指導に関する事項。
- (5) 遭難対策に関する事項。
- (6) 自然保護活動に関する事項。
- (7) 加盟団体が主管する事業に対する相互協力に関する事項。
- (8) その他本会の目的達成に必要な事項。

2 賛助会費 年額 10,000円